

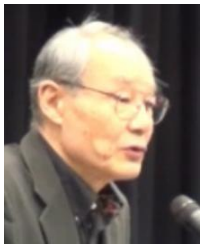
## ■第11回院内集会在開催されました

去る11月10日(木)、参議院議員会館講堂で、福島原発行動隊の[第11回院内集会](#)が開催されました。集会には103名が参加しました。

集会の冒頭、民主党の牧山ひろえ参議院議員の秘書である平林透氏が、災害対策特別委員会理事として福島での現地調査に出張中の牧山議員に代わって挨拶しました。



続いて議事に入り、まずモニタリング・チームの責任者である塩谷副理事長から、行動隊員を対象とした



モニタリング講習会の企画や、12月に予定されている東電の放射線測定要員育成研修などについての報告がありました(別掲記事「モニタリング・チームからのお知らせ」を参照)。また会場から、放射線量

測定器を購入する際に何を目安にしたらいいのかとの質問があり、塩谷副理事長は、簡単な基準はないと前置きした上で、①マニュアルがしっかりしていること、②センサーが何かがきちんと書いてあること、③標準となる測定器で測定した値と比較してみることを挙げました。また測定器にはさまざまなタイプがあり、それぞれの測定器の特性をしっかりと把握した上で測定値を評価しなければならないことを指摘しました。

この後、10月に福島県で実際にモニタリング調査を行った高橋正明氏と伊藤邦夫氏が、それぞれ初心者



と専門家の立場から調査結果について報告しました。二人の話に共通していたのは、測定値にはばらつきがあるため必ず複数回データを取ることが必要であるという



点でした。

モニタリング報告に続いて、ウォッチャー・チームの中川晋一氏が福島第一原発の現状分析について報告しました(裏面記事を参照)。



最後に、質疑と討論が行われ、会場からは活発な意見や質問が出されました。

## モニタリング・チームからのお知らせ

### ●モニタリング・チームのメンバー募集

福島原発行動隊のモニタリング・チームには現在60数名の方が登録しています。しかしモニタリング・チームでは、高濃度汚染地域のモニタリングを長期的、持続的、定期的に行うには少なくとも100名が必要だと考えており、新たなメンバーを募集しています。関心のある方は郵便、ファックス、メールなどでお申し込み下さい。[モニタリング・チームのホームページ](#)にある[「参加申込」欄](#)からも申し込みできます。

### ●モニタリング講習会を企画しています

モニタリング・チームでは行動隊内部でのモニタリング講習会を企画しています。日時と場所はまだ未定ですが、まずは千葉地域のチームメンバーを対象に年内に第一回目の講習会を開催する準備を進めています。

### ●東電の放射線測定要員育成研修について

東京電力から、次回の放射線測定要員育成研修は12月20、21、22日に実施されるとの連絡がありました。現在モニタリング・チームでは派遣する行動隊員の選考を行っています。最終的に何人受け入れられるのかが分かるのは12月初旬になります。

## ■「ウォッチャー」の報告

東京電力のサイトには福島第一原発に関する膨大な量の情報とデータがアップされています。しかしその量が膨大であること、またその十分な理解には専門的な知識が必要であることから、これらの情報・データが一般的に活用されているとは言えません。他方、毎日の新聞やテレビで報道されているニュースはきわめて限られたものでしかありません。こうした事情から、福島第一原発が現在どのような状況にあるのかについて必ずしも十分に理解されているとは言えな

い状況にあります。福島原発行動隊は、東京電力が公表している情報・データを中心に、マスメディアの報道も参考にしながら、福島第一原発の現状について深く分析するため、専門家による分析チーム「ウォッチャー」を設けました。

以下は、11月10日（木）に開催された第11回院内集会で行われたウォッチャー報告の概要です。なお当日使用されたスライドは[福島原発行動隊のサイト](#)にアップされています。

項目	東電報告	ウォッチャーの所見
原子炉の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>1~3号炉のすべてで炉底温度が100℃以下となる。</li> <li>使用済燃料プールの循環冷却が実現し、温度が安定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>炉内の溶融した燃料の所在・形状、格納容器の不具合状況等が不明のため、手探りの冷却が続いている。</li> <li>損傷した設備、設置された応急設備は、本来の耐震基準や設計管理基準を満たしていない。恒久設備が必要である。</li> </ul>
滞留水	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞留水は累計128,140トン进行处理した。</li> <li>水位は目標レベルを維持し、地下水への流出は防止されていると想定される。</li> <li>遮水用鋼管矢板の設置工事が開始された。</li> </ul>	
滞留水処理 廃棄物処理	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレバ社製設備からの廃スラッジは集中廃棄物処理建屋に保管している。</li> <li>サリーの使用済み吸着塔槽は吸着塔管理室で保管。</li> <li>構内瓦礫はコンテナに保管。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いずれの廃棄物も処理方法は未定である</li> <li>滞留水処理廃棄物は100年の管理保管が必要である。</li> </ul>
モニタリング 除染	<ul style="list-style-type: none"> <li>「汚染マップ」全国版の作成を開始した。</li> <li>除染のモデル事業を開始した。</li> <li>中間貯蔵施設に関する検討を開始した。</li> </ul>	
被曝管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急作業員の被曝は3/4月より大幅に減少した。</li> <li>被曝線量管理の充実、被曝後の健康管理のあり方について報告書を発表した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間被曝量換算では高線量被曝が見られる。</li> <li>被曝作業員の最適配置は考えられていない。</li> </ul>
要員育成・配置	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊急作業従事者数が大幅に減少した（3月の3,742人から8月1,142人へ）。</li> <li>7月21現在の作業員2,894人中、東電は374人。それ以外は下請け（元請け29社、一次下請け169社、二次下請け288社、三次以下132社）</li> <li>放射線関係の要員を育成中（東電3,000人、国40人）。</li> </ul>	

## ■年末年始の予定

歴史的な大震災と原発事故を経験した2011年もあと一月半を残すばかりとなりました。本年12月29日から来年1月4日まで事務所を閉めますのでご了承ください。

## ■『通信』発行日について

これまで『通信』は2週間に一度発行してきましたが、毎月第一週に開催している院内集会との関連を考慮して、今後は毎月10日と25日に発行することにします。